

テーマ
地域の持続可能性を高める学びの広域的な連携について

〈信州学び円卓会議の根拠〉
学びの「新しい当たり前」を共に創る
(6つの重点取組項目)
それぞれの立場から

事例① 北海道更別村教育委員会

小×2 中×1 中×1 小×2
中札内村 更別村

派遣
指導主事の共同設置

連携の研修会 学力・体力向上等サポート会議

充実 専科の加配 向上

日常的な学校訪問△
(行事も倍! データ連携もより重要)

単独の設置が望ましいところも

業務の内容整理も大切

質疑応答から
・指導主事は害愛退職として扱い(学校管理職) 更別村で採用
・2村で半々の負担
・同程度の規模や距離感など諸条件が必要だった
・協働性と独自性

中核を任せる必要がある

事例② 福島県富岡町教育委員会

「又葉8町村で取り組む教育復興」 震災からの復興への強い思い

『独自の魅力的な教育』 ビジョン

ふるさと創造学(サミット)
自分たちができること・特産品!

ICT活用(遠隔授業) ex) アール
合同授業も! リアルに会うことも

先生方への研修会も実施! 共有

事務局(県) → 実行委員会(各学校代表の先生)

『小学校絆づくり交流会』
アイスブレイク、ミニ運動会
中学校はワークショップなど

他にも
子供未来会議
生徒会連合など

まず賛同・やりたいと手を挙げた学校から!

移動でバスを使う。
市町村負担
多くの人と交流できるように!!

各場所の移住者のコミュニティを構築する

既存のコミュニティとつなげていく

質疑応答から

調整やまとめる際には、方針やリーダーシップも必要か。
→ 協働の方法は様々 住民の参画(地域の会やコミュニティスクール)
(指導主事・教育委員会自体の共同・お金の部分)

まとめ
・まちがいなくやってくる人口減に、どのように対応するか、今回の事例を考えるきっかけにしていきたい。
・9/3の2日目でも同テーマで実施。

テーマ
地域の持続可能性を高める学びの広域的な連携について

事例③ 岐阜県羽島郡二町教育委員会

『共同設置教育委員会の設置』

平成大合併 → 事務の簡素化・節約・合理的な行政
教育行政の広域化

山南町 笠松町

人員の確保も 予算 会議 など

補助金の一本化 備品の共有 人事・研修 社会教育

利点 課題

ソフト・ハードのちがいが 教員の確保(定着) 会議や行事が倍に(労力) 各課の役割りすみ分け

大切だね

特色を広げやすい

自治体の文化・歴史・考え方を尊重 / 地域の特性を活かす
各町の文化・財産を共有 / 教育の充実に生かす

講座 ICT 発信ツール

〈信州学び円卓会議の根拠〉

学びの「新しい当たり前」を共に創る
(6つの重点取組項目)

それぞれの立場から

事例④ 大分県玖珠町教育委員会

『「極」小規模地域における学びの保障のための取組』

久珠町

人口 ↓ 学校数 ↓

ふるさととは? 学校の役割り 人をつなく コミュニティの核

官民連携 自然 文化 人

小規模化(費用 組織 教育効果)

虫いいの架け橋 協議会

玖珠郡教育委員会 連絡協議会

GIGAスクール構想

将来を見据えた視点 (社会人へ)

学校と地域の連携 イギリスのフェデレーションシステム

資源や機会の共有

高校とも連携

住民主体 多様性 ICT 一体型

権限 A中学校 B小学校 C小学校

学習支援センター

ジュニアICTリーダー(JIL)

教員不足にも対応

コミュニティスクール

どの視点? 法基準のみだとうまくいかない 交流居場所

統合の際の適正な考え方は? 集団(クラス)なら10人位? 1人でも残す

たけさんの価値観にふれる 学びの場

ICTやアプリも / 年代でも異なる 地域の歴史もつなく

まとめ 連携は大切だが、各自治体の魅力や個性が失われてはならない。この問題に対し、知恵を絞りながら答えを見つけていく。